

編集後記

2022年度は神奈川大学がパンデミック以前の正常性に戻るために多大な努力をしてきました。それが「神奈川大学言語研究 No.45」にも反映されていると思います。投稿された記事の量と質は、この集団的努力の良い例です。今年が私がセンター所長としての最後の年でもあります。2023年度から、新たな所長と新たな運営委員は所員をサポートするために最善を尽くします。

神奈川大学言語研究センターのスタッフの皆様、そして今年で終了する運営委員会のメンバーの皆様にご感謝いたします。彼らのおかげで、2021年の横浜キャンパスからみなとみらいキャンパスへの移転と、過去2年間に受けたパンデミックという新たな状況に、この研究所は適応することができました。

大学の研究所は非常に重要です。それらは、研究者としての私たちの発展と、私たちが持つ管理上および労働上の義務とのバランスをとるのに役立ちます。このジャーナルはこの目的のための基本的なツールであり、その準備に参加したすべての教授は、私たちが求める研究の卓越性の例です。

Muchas gracias.

神奈川大学言語研究センター所長
アルトゥーロ・バロン